



Title	サハ語の所有を表す接尾辞 -LEEx
Author(s)	江畑, 冬生
Citation	北方言語研究, 2, 73-90
Issue Date	2012-03-26
Doc URL	<a href="http://hdl.handle.net/2115/49259">http://hdl.handle.net/2115/49259</a>
Type	bulletin (article)
Note	特集 所有表現
File Information	06ebata.pdf



[Instructions for use](#)

[特集 所有表現]

## サハ語の所有を表す接尾辞 *-LEEX*

江 畑 冬 生

(日本学術振興会特別研究員／東京外国語大学 AA 研)

### 1. はじめに

サハ語(ヤクート語)はチュルク諸語の1つであり,主にロシア極東のサハ共和国で話される言語である<sup>1</sup>。文の基本語順はSOVである。サハ語は膠着的な形態特徴を有し,語形成の手段としては専ら接尾辞を用いる。本稿では,所有を表す接尾辞-LEEXを取りあげ,その形態統語的振る舞いおよび意味について記述する<sup>2</sup>。接尾辞-LEEXは生産性が高く,高い頻度で現れる。以下,本稿の構成を述べる。2節では,接尾辞-LEEXの性格を記述する。3節では,接尾辞-LEEXの表す意味を記述する。4節では,欠如を表す形式(接尾辞-LEEXと対称的な意味を表す)を記述する。5節では,接尾辞-LEEXを用いた構文と共格構文との違いを検討する。6節では,接尾辞-LEEXを用いた構文と存在文との違いを検討する。7節では,接尾辞-LEEXが述語に現れる場合について記述する。8節で本稿の結論をまとめる。

### 2. 接辞の性格

Xaritonov (1947: 134) や Ubrjatova 他編 (1982: 163) などの先行研究では,接尾辞-LEEXを名詞から形容詞を派生する接辞であると記述する。しかしながら本節で見ると,接尾辞-LEEXには普通の派生接辞には見られないような特徴も観察される。以下では接尾辞-LEEXの性格を把握するため,どのような語に付加するか,どのような要素に付加するか,派生語の形態法,派生語の統語法について検討する。

#### 2.1 接尾辞-LEEXの付加する語

接尾辞-LEEXは,様々な語に付加するという点で生産性の高い接辞である。接尾辞-LEEXはたいていの名詞語幹に付加しうる。<例> *o ɔ-loox*「子供のある」(< *o ɔ*「子供」), *tynnyk-teex*「窓のある」(< *tynnyk*「窓」), *tuha-laax*「役に立つ」(< *tuha*「利益」)など。数詞にも付加する。<例> *ys-teex*「3歳の/3通りの」(< *ys*「3」), *otučča-laax*「約30の」(< *otučča*「約30」)。さらに,先行研究では形容詞や副詞とされる語にも付加しうる。それぞれの例を2つ挙げる。<例> *yčygej-deex*「良い所のある」(< *yčygej*「良い」), *yry ɳneex*

<sup>1</sup> 本稿で用いるデータは次の2つから成る。(1) ロシア連邦サハ共和国ヤクーツク市で筆者が行った現地調査により得られた資料,(2) サハ語週刊新聞 *Кытым* の電子版。サハ語の音素目録は次のとおり: /p, b, t, d, č[t ], ž[d ], k, g, s[s~h], x[ ʰ~q ], ɳ, m, n, ŋ[ ŋ ], ɳ, l, r, j; a, aa, e, ee, o, oo, ɳ, ɳ, ɳ, ɳ, i, ii, u, uu, y, yy, ɳa, ie, uo, y ɳ/. [s]と[h]とは同一の音素と見做せるが,音声的隔たりを考慮し区別して表記している。ロシア語からの借用語のうち固有語化していないものは,正書法からのローマ字転写により表記している。

<sup>2</sup> 接尾辞-LEEXは母音調和規則および頭子音交替規則が働くため16個の異形態を有する: *-laax, -leex, -loox, -l ɳ ɳx, -taax, -teex, -toox, -t ɳ ɳx, -daax, -deex, -doox, -d ɳ ɳx, -naax, -neex, -noox, -n ɳ ɳx*。さらに,接尾辞末の/x/は母音間で/ɳ/に交替する。

「白い部分のある」(< *yry* 「白い」), *saj \*n-naax*「夏のある」(< *saj \*n*「夏に」), *uhulučču-laax*「格別な」(< *uhulučču*「格別に」).

## 2.2 接尾辞-LEEX の付加する要素

接尾辞-LEEX は、語を対象として付加するだけでなく、二語以上から成る句を対象として付加することがある。例えば、(1)や(3)のような連体修飾構造全体を入力として接尾辞-LEEX が付加することがある。

(1)     *sa ʔa*     *ojox*  
          新しい 妻  
          「新しい妻」

(2)     *sa ʔa*     *ojox-toox*  
          新しい 妻-PROP  
          「新しい妻を持つ」

(3)     *xaar*     *ma ʔan*     *battax*  
          雪        白い        髪  
          「雪のように白い髪」

(4)     *xaar*     *ma ʔan*     *battax-taax*  
          雪        白い        髪-PROP  
          「雪のように白い髪」

サハ語の連体修飾構造には、(5)や(7)のように、被修飾名詞に所有者人称接辞が付加されるタイプのものがある。接尾辞-LEEX がこのタイプの連体修飾構造に付加される場合、連体修飾構造の被修飾名詞に付加されていた所有者人称接辞は、接尾辞-LEEX の付加に伴い取り去られる。

(5)     *xarax*     *uu-ta*  
          目        水-POSS.3SG  
          「涙」

(6)     *xarax*     *uu-laax*  
          目        水-PROP  
          「涙のある」

- (7) miliissije ta 'ah-a  
警察 服-POSS.3SG  
「警察の制服」

- (8) miliissije ta 'as-taax  
警察 服-PROP  
「警察の制服を着た」

接尾辞-LEEX は、複数接辞を含む語幹に付加することも可能である。派生接辞である接尾辞-LEEX が屈折接辞の 1 つである複数接辞に後続する現象は、語の形態的緊密性 (lexical integrity) に反することから、派生接辞としては特異な点である<sup>3</sup>。

- (9) egelge kehii-ler-deex  
様々な 土産-PL-PROP  
「様々なお土産を持った」

- (10) t 'n boppuruos-tar- 'n taar 'j-ar tieme-ler-deex  
息 問題-PL-POSS.3SG-ACC 触れる-VN.PRES 話題-PL-PROP  
「生きた問題に触れるいくつかの話題のある」

例文(10)は、複数接辞を含む語幹に接尾辞-LEEX が付加しているだけでなく、その語幹が形動詞節により修飾されている。このように、その付加する名詞が節による修飾を受けたり、あるいは形動詞節の主要部である形動詞自体に接尾辞-LEEX が付加することがある。このような用法について詳しくは第 7 節で論じる。

### 2.3 派生語の形態法

前節までで見たように、接尾辞-LEEX は極めて多様な要素を入力としうる接辞であるが、あくまで派生接辞であり、屈折接辞ないし他の派生接辞が付加しうる。例えば、接尾辞-LEEX の付加した派生語は名詞語幹として振る舞い、複数接辞・所有者人称接辞・格接辞を付加することが可能である。

- (11) saast ' '-laax-tar-b ' -ttan  
同い年-PROP-PL-POSS.1SG-ABL  
「私の同級生たちから」

<sup>3</sup> 江畑 (2011) では、この特異性を派生における脱範疇化の度合いの違いから説明した。なお「持っている」を表す接尾辞に複数接辞が後続する現象は、Erdal (2004: 139) の次の記述によれば Old Turkic にも見られる “It is much more common in relatively late texts for +LXg to be added to nominals with the plural suffix”. 現代のチュルク語においては、「持っている」を表す接尾辞に複数接辞が後続する現象は、筆者の知る限りにおいてはトゥバ語にのみ見られる [高島 2008: 70].

- (12)     banket            •••r ••-*laax-tar-* •-n  
           パーティ       招待状-PROP-PL-POSS.3SG-ACC  
           「パーティの招待状を持つ人たちを」

接尾辞-LEEX には他の派生接辞が後続することも可能である。筆者の調査では、接尾辞-LEEX に後続しうる派生接辞として動詞派生接辞-(i)msij, similative の接尾辞-LII, 副詞派生接辞-Tik が見つかった。さらには、接尾辞-LEEX を含む語幹にさらに接尾辞-LEEX が付加する例も見つかった。

- (13)     •j-d •• •ymsyj  
           知恵-PROP-VBLZ  
           「頭の良い振りをする」

- (14)     t ••n-*naax-t* ••  
           息-PROP-SIM  
           「生きたまま」

- (15)     •ksal-*laax-t* •k  
           急ぎ-PROP-ADVLZ  
           「急いで」

- (16)     tuox       k •r ••-*laax-taax-x* •n- •j  
           何       刃-PROP-PROP-COP.2SG-Q  
           「君はどのような刃のあるものを持っているか？」

接尾辞-LEEX は複数接辞を含む語幹に付加しうるし、同時に、派生語は1つの名詞語幹として機能する。従って、接尾辞-LEEX の前後それぞれに複数接辞が現れることが可能である<sup>4</sup>。

- (17)     o •o-*lor-doox-tor*       kel-li-ler  
           子-PL-PROP-PL       来る-PAST-3PL  
           「子供たちを持つ人たちが来た」

## 2.4 派生語の統語法

接尾辞-LEEX による派生語は、名詞句・連体修飾句・副詞句として機能する潜在的な能力を有する。派生語が名詞句や副詞句としても機能することを考慮すると、接尾辞-LEEX を形容詞派生接辞と記述する先行研究の立場は、派生語の統語法を正しく反映しているとは言

<sup>4</sup> 「持っている」を表す接尾辞の前後に複数接辞が現れる現象は、同系のトゥバ語にも見られる。トゥバ語母語話者研究者である Syuryun Arzhaana 氏の御教示による例をトゥバ語正書法からの転写を用いて示す：*ool-dar-lyg-lar* 「男の子たちを連れた人たち」(男の子-PL-PROP-PL)。



- (23) maah ▪ ka **ubaj-daax** ežijj-e yrdyk y ▪ rex-teex-ter  
 PSN 兄-PROP 姉-POSS.3SG 高い 教育-PROP-COP.3PL  
 「マーフンカのお兄さんとお姉さんは、高等教育を受けている」

- (24) **bah 'laj-daax** xanna bar-d ▪ -lar  
 PSN-PROP どこに 行く -PAST-3PL  
 「バフライたちはどこに行った？」

人間名詞に接尾辞-LEEX が付加したものを含む文では、(22), (23), (24)のように、主語が形式的には単数であっても、述語における主語の人称・数の標示が複数で行われることがある。

### 3.2 具体名詞

N が具体名詞である場合、N が普通所有物であるか非普通所有物であるかにより、接辞の表す意味に違いが見られることがある。まず N が普通所有物である場合、しばしば次のような含意が見られる。

(A) N を豊富に有していること。〈例〉, *b 'lč ▪ 'naax*「筋肉質の」(〈 *b 'lč ▪*「筋肉」), *xarč ▪ -laax*「金持ちの」<sup>5</sup> (〈 *xarč ▪*「金」) など。

(B) 特別な N を持っていること。〈例〉 *kuolas-taax*「良い声をしている」(〈 *kuolas*「声」), *mejii-leex*「頭の良い」(〈 *mejii*「脳」) など。

N が非普通所有物である場合、単なる所有を表すこともあるが、しばしば現に所持を含意する。単なる所有の例には(25)および(26)がある。特に(26)は、本を著書として所有していることを意味する。つまりこれらの例では、接尾辞-LEEX は概念的な所有関係を表しているため、「現に所持」しているか否かは問題とならない。

- (25) **mass ▪ 'na-laax** kiki syyrbe-čče b ▪ r ▪ h ▪ an-a  
 車-PROP 人 20-APRX パーセント-POSS.3SG  
 「車を持っている人の約 20 パーセント」

- (26) ikki t ▪ l ▪ nan uon-tan taxa **kinige-leex** vasil'ev  
 2 語-INS 10-ABL 以上 本-PROP PSN  
 「2 つの言語による 10 冊以上の著書があるワシーリエフ」

(25)や(26)とは対照的に、N が非普通所有物である場合の接尾辞-LEEX の用例の大部分は、現に所持を含意する。現に所持していることに加え、N を着用中または使用中であることや

<sup>5</sup> 「お金」は譲渡可能所有物であるが、譲渡不可能な普通所有物の場合と同様、*xarč ▪ -laax* (金-PROP) には特別な含意がある。角田 (2009: 153) は日本語について同様の指摘を行っている。

N への乗用をもしばしば含意する。以下、それぞれの例を 2 つずつ示す。

- (27) o ʔ-but      *ta ʔs-taax*      utuj-but  
 子-POSS.1PL    服-PROP                  眠る-PAST:3SG  
 「私たちの子供は服を着たまま眠ってしまった」
- (28) xal ʔ ʔ    taas-taax      *ač ʔk ʔ-laax*      uol-čaan  
 厚い      ガラス-PROP      眼鏡-PROP      男の子-DIM  
 「分厚いレンズの眼鏡をかけた男の子」
- (29) o ʔ-lor      *meečik-teex*      ooñnuu-l-lar  
 子-PL                  ボール-PROP      遊ぶ-PRES-3PL  
 「子供たちはボールを使って遊んでいる」
- (30) biir    uol      *gitara-laax*      ʔllaa-b ʔt-a  
 1      男の子      ギター-PROP      歌う-PAST-3SG  
 「1 人の男の子は、ギターを弾きながら歌った」
- (31) *xaj ʔhar-daax*    kihi    kurduk    tuox =ere    ih-er  
 スキー-PROP    人      ような      何 =CLT    向かう-PRES:3SG  
 「スキーに乗った人のような何かが向かってくる」
- (32) *mass ʔ ʔna-laax-tar*    xapta ʔaj- ʔnan    s ʔlž- ʔax-tara  
 車-PROP-PL                  PLN-INS                  いる-FUT-3PL  
 「車に乗った人たちはハプタガイ経由で行くことになるだろう」

人間名詞の場合と同様、接尾辞-LEEX の付加した派生語と後続の名詞が等位構造を構成することがある。(33)では、「シャツのついたズボン」ではなく「シャツとズボン」を表している。

- (33) sa ʔa      *ʔrbaax ʔ-laax*      ʔstaan- ʔ-n                  ket-en  
 新しい    シャツ-PROP      ズボン-POSS.3SG-ACC      着る-CVB  
 「新しいシャツとズボンを着て…」                  [Čeremisina 他編 1995: 69]

N が容器に入った内容物を表すことがある。この場合、容器と内容物が一体的に存在すること(すなわち容器に内容物が入っていること)を必ず含意する。例えば(34)では、容器「瓶」に内容物「酒」が入っていることが必ず含意される。対照的に、所有者人称接辞を用いた(35)では、実際の内容物が入っているか否かは問題とならない(しかも多くの場合には入っていない)。



(34) *ar 'g 'laax*    *b 't 'lka*  
 酒-PROP        瓶  
 「酒の入った瓶」

(35) *ar 'g '                    b 't 'lka-ta*  
 酒                            瓶-POSS.3SG  
 「酒瓶 (酒の瓶)」

内容物ではなく、容器を表す名詞に接尾辞-LEEX を付加することも出来る。すなわち(36)と(34)は構造が逆転する。容器を表す名詞に接尾辞-LEEX が付加される場合、しばしば内容物の数量を表す。

(36) *b 't 'lka-laax*        *ar 'g '*  
 瓶-PROP                    酒  
 「瓶に入った酒／ひと瓶の酒」

### 3.3. 抽象名詞

N が抽象名詞である場合の接尾辞-LEEX の表す意味は、N により表される性質を有する人間、恒常的性質ないし一時的性質である。

(A) 人間を表す。<例> *k 'aj 'laax* 「勝者」 (< *k 'aj 'laax* 「勝利」), *xaaj 'laax* 「囚人」 (< *xaaj 'laax* 「禁錮」), *pensija-laax* 「年金生活者」 (< *pensija* 「年金」), *olox-toox* 「住民」 (< *olox* 「生活」) など。

(B) 人または事物の恒常的性質を表す。<例> *y 'rex-teex* 「学のある」 (< *y 'rex* 「教育」), *kyys-teex* 「強い、力持ちだ」 (< *kyys* 「力」), *ki 'neex* 「怒りっぽい」 (< *ki 'neex* 「憤怒」) など。

(C) 人または事物の一時的性質を表す。<例> *xat 'laax* 「[戸が]施錠されている」 (< *xat 'laax* 「施錠」), *birieme-leex* 「暇である」 (< *birieme* 「時間」), *ys-teex* 「3歳である／3通りである」 (< *ys* 「3」) など。

ここに示したいずれの例も、名詞句または連体修飾句として用いることが可能であるが、副詞句として用いられることは無い。すなわち N-LEEX が副詞句として用いられるのは、N が具体名詞 (人間名詞を含む) の場合に限られる。

### 3.4 接尾辞-LEEX を付加できない名詞

接尾辞-LEEX は高い生産性を持つものの、以下の名詞には付加しない：人称代名詞、所有代名詞 (「私のもの」など)、指示詞、地名、現在地を基準とする場所を表す名詞 (東西南北、上下左右、前後、真ん中)、現在時を基準とする時間を表す名詞 (今日、明日、今年、さっき、等)。接尾辞-LEEX は、地名および直示表現には付加しないのだとまとめられる。

#### 4. 欠如を表す形式

接尾辞-LEEX による派生語と対照的な意味を表す形式に、欠如を表す句がある。欠如を表す句は、名詞語幹に欠如の接尾辞-(t)E を付加し、それに *suox* 「ない」を後置することで形成される。〈例〉 *xarč* 「金」に対し *xarč -ta suox* 「お金のない」(金-ABES ない)。以下では所有を表す接尾辞-LEEX の用法と対照しつつ、欠如を表す句の特徴を記述する<sup>6</sup>。

##### 4.1 欠如を表す句の入力となる要素

接尾辞-LEEX と同様、欠如を表す句も非常に高い生産性を持つ。接尾辞-LEEX と異なる点は2つある。1つは、欠如を表す句は人称代名詞および指示詞からも形成される点である。〈例〉 *miigin-e suox* 「私無しで」、*mant-a suox* 「これなしで」。もう1つは、欠如を表す句が人名から形成されることは無いことである。

接尾辞-LEEX の場合と同様、連体修飾構造や形動詞節による修飾を受けた名詞を入力として欠如を表す句を形成することが可能である。欠如の接尾辞-(t)E は、複数接辞に後続することも可能である<sup>7</sup>。

- (37) *yčygej yle-te suox*  
 良い 仕事-ABES ない  
 「良い仕事の無い」

- (38) *ulaxan uol-lara tuspa bar-ar žie-te suox*  
 大きい 息子-POSS.3PL 別に 行く -VN.PRES 家-ABES ない  
 「彼らの大きい息子は、[両親と] 別に住む家がなく…」

- (39) *ies-ter-e suox*  
 借金-PL-ABES ない  
 「借金の無い」

##### 4.2 欠如を表す句の形態法

欠如を表す句の主要部である *suox* 「ない」は、形態法上は名詞語幹同様に働き屈折接辞が付加されうる。一方で欠如を表す句の主要部に付加されうる派生接辞は、(41)に示す副詞派生接辞-Tik のみである。

<sup>6</sup> 筆者は、欠如の接尾辞-(t)E 自体を屈折接辞と見なし、「欠如の接尾辞-(t)E+*suox*」による欠如を表す句全体を1つの派生語に相当するものとして分析する。欠如の接尾辞-(t)E と *suox* 「ない」の間には、接語のみが介入しうる。欠如を表す句は、従来のサハ語研究では「形容詞の否定形」として記述されてきた [例えば Ubrjatova 他編 (1982: 160)]。しかしながら本稿の例が示すように、欠如を表す句が形成されるのは形容詞からだけではない。

<sup>7</sup> 欠如の接尾辞-(t)E が所有接辞または格接辞と共起することは無い。

(40) k<sup>•</sup>a<sup>•</sup>a suox-tar-<sup>•</sup>-ttan  
 力-ABES ない-PL-POSS.3SG-ABL  
 「[その] 力が無いことにより」

(41) t<sup>•</sup>ah-a suox-tuk  
 音-ABES ない-ADVLZ  
 「音もなく」

#### 4.3 欠如を表す句の統語法

接尾辞-LEEX による派生語と同様、欠如を表す句も、名詞句・連体修飾句・副詞句として機能する潜在的な能力を有する。ただし接尾辞-LEEX の場合とは異なり、抽象名詞から形成された欠如を表す句も副詞句として用いられうる。

[名詞句]

(42) biir =da kyn-y tuha-ta suox-xa<sup>•</sup> t-<sup>•</sup>ma  
 1 =CLT 日-DAT 利益-ABES ない-DAT 送る:IMP-NEG:2SG  
 「1 日たりとも無益なことに使うな」

[連体修飾句]

(43) ata<sup>•</sup>a suox žaxtar  
 足-ABES ない 女性  
 「[手術により] 足の無い女性」

[副詞句]

(44) o<sup>•</sup>lor ajdaan-a suox utuj-al-lar  
 子-PL 騒ぎ-ABES ない 眠る-PRES-3PL  
 「子供たちはおとなしく眠っている」

#### 4.4 欠如を表す句の意味

人間名詞から形成された欠如を表す句は、親族の不在または非随伴を表す。

(45) bu žon tuox =da ajma<sup>•</sup>a suox xallaan-tan  
 この 人々 何 =CLT 親戚-ABES ない 空-ABL  
 tys-pyt žon =duu  
 降る-VN.PAST 人々 =Q  
 「この人たちはいかなる親戚も無く空から降ってきた人々なのか？」

- (46) vitja *ejigin-e* *suox* bar-bat =yhy  
 PSN 君-ABES ない 行く-NEG:PRES:3SG =HS  
 「ヴィーチャは君無しでは行かないそうだ」

普通所有物から形成された欠如を表す句は、先に示した(43)のように、そのもの自体の欠如を表す場合もある。しかし以下の例のように、そのもの自体の欠如を表さない例もある。(47)では、「目」自体の欠如ではなく視覚がないことを表す。同様に(48)では、「心」自体の欠如ではなく思いやりに欠けることを表す<sup>8</sup>。

- (47) ikki *xara ʔa* *suox* ebe-bit  
 2 目-ABES ない お婆さん-POSS.1PL  
 「両目の見えない私たちのお婆さん」

- (48) *syre ʔe* *suox-tar- ʔ* at s ʔbylee-bet  
 心-ABES ない-PL-ACC 馬 好む-NEG:PRES:3SG  
 「心無い人たちを馬は好まない」

非普通所有物から形成された欠如を表す句は、単なる欠如を表す。

- (49) ah ʔ ʔ-r *ah-a* *suox*  
 食べる-VN.PRES 食べ物-ABES ない  
 「食べる食べ物が無い」

- (50) t ʔb ʔ-m ʔalž-ar buol-but-a senie-*te* *suox-pun*  
 頭-POSS.1SG 病む-VN.PRES なる-PAST-3SG 元気-ABES ない-COP.1SG  
 「私は頭が痛くなった。元気がない」

#### 4.5 接尾辞-LEEX と欠如を表す形式の非対称

欠如を表す句の表す意味は、普通所有物から形成された場合には特別な含意を表す点も含め、接尾辞-LEEX と対称的である。しかし、その形態統語的振る舞いには以下の2つの非対称が見られる。(A) 所有を表すのは接尾辞-LEEX (単一形態素) であるが、欠如は接尾辞-(t)E および *suox* 「ない」により複合的に表される<sup>9</sup>。(B) 両者とも非常に高い生産性を持つが、接尾辞-LEEX は人称代名詞および指示詞には付加されない(欠如を表す句はこれらからも形成される)。欠如を表す句は人名からは形成されない(接尾辞-LEEX は人名名詞にも付加する)。(C) 接尾辞-LEEX による派生語は、具体名詞(人間名詞を含む)に付加された場合

<sup>8</sup> 角田 (1992) は日本語について、所有の否定の表現に特別な含意が生じることを指摘する。

<sup>9</sup> チュルク諸語の多くには、トルコ語の *-sIz* など、欠如を表す形式として形容詞を派生する接尾辞がある [Šćerbak (1977: 99)]。管見の限りでは、サハ語の他にはトゥバ語についても、対応する派生接尾辞が無い。

にのみ副詞句として働く。一方、欠如を表す句は、抽象名詞から形成された場合にも副詞句として働く。

## 5. 共格構文との違い

接尾辞-LEEX は、人間名詞に付加した場合に随伴を表すことがある [3.1 節]。サハ語には格接辞として共格接辞があり、共格接辞の付加された名詞句（共格名詞句）も随伴を表す。このように接尾辞-LEEX と共格の用法は部分的に重なり、両者を置き換えても文意が変わらないことがある。例えば、(51)と(52)は同じ意味である。

(51) *valja-l* ▪ *n*      kostja      kel-li-ler  
 PSN-COM      PSN      来る-PAST-3PL  
 「ヴァーリャとコスチャが来た」

(52) *valja-laax*      kostja      kel-li-ler  
 PSN-PROP      PSN      来る-PAST-3PL  
 「ヴァーリャとコスチャが来た」

接尾辞-LEEX を用いた場合と共格構文との違いが現れることもある。共格名詞句は連体修飾する機能を持たず、常に述語と直接関係する。従って、(53)における共格名詞句が後続の *kostja-n* ▪ 「コスチャを」を修飾するとは決して解釈されない（つまり(53)の「ヴァーリャ」は叱る側である）。一方、接尾辞-LEEX による派生語は、2.4 節で見たように連体修飾句として機能しうる。(54)では接尾辞-LEEX による派生語が後続の *kostja-n* ▪ 「コスチャを」を修飾する要素として解釈される（つまり(54)の「ヴァーリャ」は叱られる側である）。

(53) *valja-l* ▪ *n*      kostja-n ▪      m ▪ x-pyt-ym  
 PSN-COM      PSN-ACC      叱る-PAST-1SG  
 「ヴァーリャと私はコスチャを叱った」

(54) *valja-laax*      kostja-n ▪      m ▪ x-pyt-ym  
 PSN-PROP      PSN-ACC      叱る-PAST-1SG  
 「私は、ヴァーリャおよびコスチャを叱った」

## 6. 存在文との違い

接尾辞-LEEX による派生語が述語として現れる場合に、所有よりはむしろ存在を表すことがある。そのため、接尾辞-LEEX を述語として用いた構文（以下では所有構文）と存在文をほぼ同じ意味で置き換えられることがある。

所有者が有生物であり、所有物 (N) が譲渡可能な名詞である場合、所有構文(55)と存在文(56)がほぼ同じ意味を表す。

- (55) min mann <sup>•</sup>k kinige-leex-pin  
私 このような 本-PROP-COP.1SG  
「私はこのような本を持っている」
- (56) miexe mann <sup>•</sup>k kinige baar  
私:DAT このような 本 ある:COP.3SG  
「私にはこのような本がある」

サハ語の所有構文と存在文との違いについては、すでに風間 (1999: 110-112) が、譲渡不可能なもの所有は接尾辞-LEEXにより表されると指摘している。筆者のデータからもこの指摘は裏付けられる。例えば身体部位を表す名詞について存在文を用いる例は、次の(57)のようなきわめて特殊な文脈（この例は計算問題）でないと不可能である。

- (57) <sup>•</sup>t ty <sup>•</sup>rt atax-taax kihi ikki atax-taax  
犬 4 足-PROP:COP.3SG 人 2 足-PROP:COP.3SG  
bar <sup>•</sup>-ta *syyrbe ikki atax baar*  
全て-POSS.3SG 22 足 ある:COP.3SG  
<sup>•</sup>t uonna kihi xah- <sup>•</sup>j  
犬 と 人 いくつ:COP.3SG-Q  
「犬は4本足だ。人は2本足だ。全部で22本の足がある。犬と人はいくつか？」

風間 (1999) はまた、所有構文はその存在が恒常的であることも指摘している。しかしながらこの指摘については当てはまらない例もある。例えば先の(55)では、一時的な所有関係であっても構わない。所有者が無生物である場合にも、所有構文により一時的な存在を表すことが可能である。例えば(58)は、グループの構成員が現在は2人であることを述べている（グループの構成員は常に2人とは限らない）。次の(59)は、当日の天候を述べる文脈である（常に秒速5メートルの風が吹くわけではない）。つまり、恒常性と言うよりはむしろ、所有物が譲渡不可能であり、所有者と所有物が一体的に存在する場合に所有構文が用いられ、そうでない場合には存在文が用いられる。

- (58) biligin b <sup>•</sup>l <sup>•</sup>x *ikki kihi-leex*  
今 グループ 2 人-PROP:COP.3SG  
「今、そのグループは2人の人から成る」
- (59) s <sup>•</sup>kyynde- <sup>•</sup>e bies mietera tyrgen-neex t <sup>•</sup>al-laax  
秒-DAT 5 メートル 速い-PROP 風-PROP:COP.3SG  
「[今日は] 秒速5メートルの風がある」

## 7. 接尾辞-LEEX が述語に現れる場合

接尾辞-LEEX による派生語が述語として現れることがある。具体名詞に接尾辞-LEEX が付加したものが述語となる場合には、(55)のように所有を表す。抽象名詞に接尾辞-LEEX が付加したものが述語となる場合には、所有を表すというよりは、N-LEEX が判断や内容を表すと見なせる場合がある。以下まず 7.1 節では、形動詞節を主語とし、それに対する判断を N-LEEX が述語として叙述する例を、次に 7.2 節では、形動詞節による連体修飾を受けた N-LEEX が形動詞節の内容を述べる例を記述する。以降の例文では、形動詞節を [ ] で囲み示す。

### 7.1 判断を表す場合

形動詞節を主語とし、N-LEEX がそれに対する判断を述べる述語になることがある。以下の例のほか、*maxtal-laax* 「有り難い」(感謝-PROP)、*xaj ul-laax* 「素晴らしい」(称赞-PROP)、*zohun-naax* 「立派だ」(重要な-PROP) などが判断を述べる述語として現れうる。

- (60) [ bu keli ʔi s ʔl-lar-ga bilsɨ-betex-pit ]  
 この 最近の 年-PL-DAT 連絡しあう-NEG:VN.PAST-1PL  
**k ʔh ʔ ʔ-laax**  
 遺憾-PROP:COP.3SG  
 「この何年か私たちが [手紙で] 連絡し合わなかったことは遺憾だ」
- (61) [ prezident pravitel'stvo t ʔa sir-in k ʔhal ʔa-lar- ʔ-gar ]  
 大統領 政府 田舎 所-POSS.3SG 心配-PL-POSS.3SG-DAT  
 bol ʔomto-nu kyyhyrd-ybyt-tere ] **y ʔryy-leex**  
 注意-ACC 強める-VN.PAST-3PL 喜び-PROP:COP.3SG  
 「大統領および政府が農村地区の諸問題に対し注目を強めたことは、喜ばしい」
- (62) [ an ʔg ʔsk ʔ spartakiada min t ʔr ʔ ʔbyt uluus-par ]  
 次の 競技大会 私 生まれた 地方-POSS.1SG-DAT  
 buol-ar-a ] ulaxan **kerexsebil-leex**  
 なる-VN.PRES-3SG 大きい 関心-PROP:COP.3SG  
 「次のスポーツ大会が私の生まれ故郷で行われることは、大変興味深い」

### 7.2 内容節を導く場合

N-LEEX が形動詞節による連体修飾を受けており、その形動詞節が N-LEEX の内容を述べる節として働くことがある。以下の例文に示すもののほか、*cin ʔi-leex* 「様子だ」(兆候-PROP)、*s ʔal-laax* 「つもりだ」(目的-PROP)、*sanaa-laax* 「つもりだ」(考え-PROP)、*yges-teex* 「習慣だ」(習慣-PROP)、*kuttal-laax* 「おそれがある」(怖れ-PROP)、*k ʔhal ʔu-laax* 「心配だ」(心配-PROP)、*k ʔax-taax* 「～できる」(可能性-PROP)、*ajdaan-naax* 「～ことがある」(騒ぎ-PROP)、*ba ʔu-laax* 「～したい」(希望-PROP)、*ebeehines-teex* 「～しなければならない」(義務-PROP) などが内

容節を導く述語として生起しうることが筆者の調査により明らかになった。

- (63) [ žollom-mut ]                    **žyhyn-neex-xin**  
 幸せを感じる-VN.PAST    容姿-PROP-COP.2SG  
 「君は嬉しそうだ」
- (64) turba            [ bies uon s \*l    ylelii-r ]                    **bolžox-toox**  
 パイプ            50            年            働く-VN.PRES    決定-PROP:COP.3SG  
 「パイプラインは、50年間運用される決まりだ」
- (65) beje- \*t                    [ xahan    žielen-er ]                    **b \*laan-naax-x \*t**  
 自身-POSS.2PL            いつ            帰宅する-VN.PRES            計画-PROP-COP.2PL  
 「あなた方自身はいつ帰宅する予定ですか？」
- (66) [ biir    tyyn    bies uon    and \* -n \*                    \*l \*r-byt ]                    **kem-ner-deex-pit**  
 1            夜            50            クログモ-ACC    殺す-VN.PAST    時-PL-PROP-COP.1PL  
 「私たちは一晩で50羽のクログモを捕まえたことがある」

### 7.3. 推定を表す成分としての文法化

7.2 節に示した例と同様に、*b \*h \* \*-laax* 「様子だ」(様子-PROP) が述語として現れ、それを修飾する形動詞節の内容を表すことがある(67)。

- (67) [ s \*laj-b \*t ]                    **b \*h \* \*-laax-x \*n**  
 疲れる-VN.PAST    様子-PROP-COP.2SG  
 「君は疲れてしまったようだ」

この *b \*h \* \*-laax* 「様子だ」には、以下の例が示すように、推定を表す成分として文法化していることを示唆する用例がある。(67)の *b \*h \* \*-laax* 「様子だ」は、意味的には述語らしくはないものの、コピュラ接辞が付加されていることから分かるように構造上はあくまで述語である。ところで(67)と同じ意味を(68)により表すこともできる。(68)の *b \*h \* \*-laax* 「様子だ」には、主語の人称・数を標示する接尾辞が無い(主語の標示は直前の定形動詞に施されている)。(68)の場合には、*b \*h \* \*-laax* 「様子だ」は意味だけでなく構造上も述語らしさを失い、あたかも推定を表す成分であるかのように働く。なお(68)では、*b \*h \* \*-laax* 「様子だ」を取り去っても文法的な文が成立する。

- (68) s \*laj-b \*k-k \*n                    **b \*h \* \*-laax**  
 疲れる-PAST-2SG            様子-PROP  
 「君は疲れてしまったようだ」



#### 7.4. 形動詞への付加

接尾辞-LEEX が名詞語幹ではなく形動詞に付加し、それが述語として現れる場合がある。サハ語の形動詞は3つの時制（過去、現在、未来）を区別するが、接尾辞-LEEX はそれら全てに付加しうる<sup>10</sup>。接尾辞-LEEX が形動詞過去に付加した場合、経験を表す。(69)は動詞述語を用いた過去時制の文である。(69)と比べ、形動詞過去に接尾辞-LEEX を付加したものを述語とした文(70)では、接尾辞-LEEX があたかも経験を表す接尾辞のように働いている。形動詞現在または形動詞未来に付加した場合、予定あるいは義務を表す(71), (72)。接尾辞-LEEX がどの時制を表す形動詞に付加した場合にも、形動詞の支配する対格目的語はそのままの形式で保持される<sup>11</sup>。

- (69) min biir onnuk tybelte-ni isti-bit-im  
私 1 そのような 出来事-ACC 聞く -PAST-1SG  
「私はそのような出来事を聞いた」
- (70) min biir onnuk tybelte-ni **isti-bit-teex-pin**  
私 1 そのような 出来事-ACC 聞く -VN.PAST-PROP-COP.1SG  
「私はそのような出来事を聞いたことがある」
- (71) nahaa ast ʔg- ʔ **kepsii-r-deex-pin**  
とても 満足のいく -ACC 語る -VN.PRES-PROP-COP.1SG  
「私はとても満足のいく [話] を話すつもりです」
- (72) ʔr ʔspyybylyke bečeet-in ejge-ti-n **syryny ʔ-x-teex**  
共和国 印刷-POSS.3SG 分野-POSS.3SG-ACC 導く -VN.FUT-PROP  
terilte-ler  
組織-PL  
「[サハ] 共和国の出版分野を先導すべき組織」

#### 8. まとめ

本稿ではサハ語の所有を表す接尾辞-LEEX について記述した。Xaritonov (1947: 134) や Ubrjatova 他編 (1982: 163) などの先行研究では、接尾辞-LEEX は名詞から形容詞を派生する

<sup>10</sup> サハ語以外のチュルク諸語において、「持っている」を表す接尾辞が形動詞に付加するのはトルクメン語で可能である。Clark (1998: 539) の以下の記述によれば、所有を表す接尾辞は未来を表す形動詞に付加し義務を表す。“Adding the suffix +лы/ли /+l ʎi/ to a verb ending in the future indefinite participle (-ap/ep /-ar/er/), or to this participle plus the association suffix +лык/лик /+l ʎlik/ produces forms equivalent to English ‘should do (something)’”.

<sup>11</sup> この現象も語の形態的緊密性に反する。派生接辞-LEEX が屈折接辞の1つである形動詞接辞の外から付加するだけでなく、派生語の一部に過ぎないはずの形動詞が依然として動詞としての自律性を持ち、対格目的語を支配しているからである。2節でも述べたように、接尾辞-LEEX は普通の派生接辞には見られないような特徴を有していると言える。

接辞であるとされる。しかし2節で記述したように、接尾辞-LEExは極めて多様な要素を入力とすることが可能であり、派生の結果は名詞句・連体修飾句・副詞句のいずれとしても機能する。接尾辞-LEExは単なる所有を表すだけではなく、特別な含意（Nの豊かさや現に所持など）を表すこともある。対照的な意味を表す欠如を表す形式にもやはり、特別な含意が見られることがある（ただしその形態統語的振る舞いは必ずしも対照的ではない）。接尾辞-LEExが人間名詞に付加し随伴を表す場合、共格構文の用法と部分的に重なる。ただし共格構文とは異なり、接尾辞-LEExによる派生語が随伴を表す際には連体修飾する要素として解釈されることもある。接尾辞-LEExによる派生語が述語として現れる場合、所有よりはむしろ存在を表すことがあり、存在文の用法と部分的に重なる。ただし存在文とは異なり、接尾辞-LEExは所有者と所有物が一体的に存在することを含意する。抽象名詞に接尾辞-LEExが付加したものが述語となる場合、所有ではなく判断や内容を表すと見なせる場合がある。さらには、形動詞自体に接尾辞-LEExが付加したものが述語となることもあり、その場合にも形動詞は依然として対格目的語を支配することが可能である。

#### 略号

-	接辞境界	COM	共格	PLN	地名
=	接語境界	COP	コピュラ	POSS	所有者人称接辞
1	1人称	CVB	副動詞	PRES	現在
2	2人称	DAT	与格	PROP	propriative
3	3人称	DIM	指小辞	PSN	人名
ABES	欠如の接尾辞	FUT	未来	Q	疑問
ABL	奪格	HS	伝聞	RECP	相互
ACC	対格	IMP	命令	SG	単数
ADVLZ	副詞化	INS	具格	SIM	similative
APRX	概数	NEG	否定	VBLZ	動詞化
CAUS	使役	PAST	過去	VN	形動詞
CLT	接語	PL	複数		

#### 参考文献

- Čeremisina, M.I., et al. (eds.) 1995. *Grammatika sovremennogo jakutskogo literaturnogo jazyka. Sintaksis*. [The grammar of modern standard Yakut. Syntax.] Moskva: Nauka.
- Clark, Larry. 1998. *Turkmen reference grammar*. [Turcologica 34.] Wiesbaden: Harrassowitz.
- 江畑 冬生 2011. 「サハ語（ヤクート語）の統語的派生と脱範疇化」 『日本言語学会 第142回大会 予稿集』 122-127.
- Erdal, Marcel. 2004. *A grammar of Old Turkic*. Leiden/Boston: Brill.
- 風間 伸次郎 1999. 「アルタイ諸言語のいくつかにみられる所有／存在を示す一形式について」 *Altai Hakpo*. [アルタイ学報] 9: 93-124.

- Ščerbak, A.M. 1977. *Očerki po sravnitel'noj morfologii tjurksjix jazykov (imja)*. [Outline of comparative morphology of Turkic languages (nominals).] Leningrad: Nauka.
- 高島 尚生 2008. 『基礎トゥヴァ語文法』 東京外国語大学 アジア・アフリカ言語文化研究所.
- 角田 太作 1992. 「身体部分と属性の表現について」 田島 毓堂・丹羽 一弥 編 『日本語研究〈3〉 現代日本語の研究』 149-168. 和泉書院.
- 角田 太作 2009 [1991]. 『世界の言語と日本語 改訂版 言語類型論から見た日本語』 くろしお出版.
- Ubrjatova, E.I., *et al.* (eds.) 1982. *Grammatika sovremennogo jakutskogo literaturnogo jazyka. Fonetika i morfologija*. [The grammar of modern standard Yakut. Phonology and morphology.] Moskva: Nauka.
- Xaritonov, L.N. 1947. *Sovremennyj jakutskij jazyk*. [Modern Yakut.] Jakutsk: Gosizdat JaASSR.

### Proprietary Suffix *-LEEX* of Sakha (Yakut)

Fuyuki EBATA

(Japan Society for the Promotion of Science/ ILCAA, TUFS)

This paper examines morphosyntactic and semantic characteristics of the proprietary suffix *-LEEX* of Sakha (Yakut). The suffix *-LEEX* is highly productive and its resultant functions as adnominal phrases or predicates (i.e. predicative possession), as well as noun phrases or adverbials. Semantically, the suffix *-LEEX* often implies possession at that very moment. The suffix *-LEEX* has been described as an adjectivizing suffix, but this suffix shows uniqueness as a derivational suffix in that the suffix *-LEEX* can attach after a plural suffix, which is inflectional and to a verbal noun which retains its accusative argument.

(えばた・ふゆき fuyuki@mtc.biglobe.ne.jp)